

---

会社名 三光産業株式会社（7922）

---

説明内容 平成20年3月期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 平成20年3月期決算概要
- III. 今後の展開、平成21年3月期業績予想

# I. 三光産業のご紹介

## ◎事業目的及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 15 年に中国深圳市に同社の生産委託工場を設置し、平成 19 年 2 月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

## ◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

## ◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を迫及する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

## ◎当期のトピックス

2007 年 8 月 中国深圳市において光華産業有限公司の子会社(当社孫会社)  
燦光電子(深圳)有限公司 操業を開始。

2007 年 12 月 中国北京市に光華産業有限公司の北京事務所を開設。

## Ⅱ.平成 20 年 3 月期決算概要

### ◎ 損益計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	07/3 期		08/3 期		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額
売上高	11,791	100.0	12,273	100.0	482
AV 機器関連	(3,184)	(27.0)	(2,992)	(24.4)	(△192)
OA 機器関連	(4,516)	(38.3)	(4,580)	(37.3)	(64)
その他電気機器関連	(1,753)	(14.9)	(2,367)	(19.3)	(614)
輸送用機器関連	(1,106)	(9.4)	(1,261)	(10.3)	(155)
その他	(1,230)	(10.4)	(1,073)	(8.7)	(△157)
売上総利益	2,332	19.8	2,369	19.3	37
営業利益	502	4.3	423	3.5	△79
経常利益	533	4.5	452	3.7	△81
当期純利益	335	2.8	298	2.4	△37

2008 年 3 月期の業績に関しましては、前期比増収、減益の結果となっております。

○ 売上高に関しましては、引続き顧客企業の海外への生産シフトが続くなかで、主力の印刷加工品に加え成型加工品分野にも営業活動を推進すると共に、海外市場特に中国での生産及び営業活動を積極的に展開した結果、売上高 12,273 百万円と前期比 4.1%増加いたしました。

- ・ AV 機器関連は、主に DVD・オーディオ機器向けの受注量の減少により売上高 2,992 百万円、前期比 6.0%減少。
- ・ OA 機器関連は、主に携帯電話機向け外構部品やパソコン機器関連ラベル等の受注量は増加しましたが、大手家電メーカーの携帯部門の撤収により売上鈍化し、売上高 4,580 百万円、前期比 1.4%増加。
- ・ その他電気機器関連は、電池関係ラベル、電子部品向け及び住設関連の受注が増加し売上高 2,367 百万円、前期比 35.0%増加。
- ・ 輸送用機器関連は車の内外装向け部品の受注量の増加により 1,261 百万円、前期比 14.0%の増加。
- ・ その他の業種は、主としてアミューズメント関連を中心に売上高 1,073 百万円、前期比 12.8%減少。

○ 売上総利益は、顧客企業の海外生産シフト及び受注単価の低下が続くなか、生産効率の向上を図って参りましたが、燦光電子(中国深圳市)の操業準備費等により粗利益率は前期比 0.5 ポイント低下いたしました。

○ 営業利益は内部統制等にかかわる費用の増加で販管費が 115 百万円増加となり、423 百万円、前期比 15.7%減少、売上高に対する比率 3.5%で前期 4.3%に比べ 0.8 ポイント低下しております。

○ 営業外では、為替差損 37 百万円（前期比 20 百万円増加）の計上により、経常利益は 452 百万円と前期比 15.1%減少となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	07/3 期	08/3 期	増減額
流動資産	(8,555)	(8,508)	(△47)
現金及び預金	3,608	3,433	△175
売上債権	3,962	4,065	103
棚卸資産	852	833	△19
その他流動資産	131	177	46
固定資産	(6,282)	(6,417)	(135)
資産合計	(14,838)	(14,925)	(87)
流動負債	(2,715)	(2,701)	(△14)
買入債務	2,186	2,124	△62
その他流動負債	529	577	48
固定負債	(366)	(357)	(△9)
退職給付引当金	177	176	△1
その他固定負債	189	181	△8
負債合計	(3,082)	(3,058)	(△24)
株主資本	(11,370)	(11,571)	(201)
評価・換算差額等	(85)	(△13)	(△98)
少数株主持分	(299)	(308)	(9)
純資産合計	(11,755)	(11,866)	(111)
負債・純資産合計	(14,838)	(14,925)	(87)

2008年3月期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当期末における流動資産の残高は 8,508 百万円（前年同期末 8,555 百万円）となり、47 百万円減少いたしました。これは、主に有形固定資産の取得により現金及び預金が 175 百万円減少したためであります。
- 当期末における固定資産の残高は 6,417 百万円（前年同期末 6,282 百万円）となり、135 百万円増加いたしました。これは、有形固定資産の取得による増加 187 百万円によるものです。
- 当期末における流動負債の残高は 2,701 百万円（前年同期末 2,715 百万円）となり、14 百万円減少しております。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が 40% と高いことが原因であります。
- 当期末における純資産の部合計は 11,866 百万円（前年同期末 11,755 百万円）となり、111 百万円増加いたしました。これは、当期純利益計上に伴う利益剰余金の増加 202 百万円の増加及び評価換算差額 98 百万円の減少によるものであります。なお、自己株式の期末残高は、15,136 株、12 百万円であります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	07/3 期	08/3 期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	477	548	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,078	△704	△373
財務活動によるキャッシュ・フロー	△100	△98	2
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	17	1
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△684	△235	△448
現金及び現金同等物の期首残高	4,085	3,401	△684
現金及び現金同等物の期末残高	3,401	3,165	△235

当会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ 235 百万円減少し、当会計期間末には 3,165 百万円となりました。

当会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は 548 百万円（前期比 71 百万円増）となりました。これは、税金等調整前当期純利益が 446 百万円計上され、減価償却費も 299 百万円計上されましたが、減少要因として売上債権の増加 111 百万円その他、法人税等の支払が 137 百万円発生したこと等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は 704 百万円（同 373 百万円減）となりました。これは、定期預金の預入による支出が 128 百万円計上された他、有形固定資産の取得による支出が 528 百万円発生したこと等によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は 98 百万円（同 2 百万円減）となりました。これは主に親会社による配当金の支払が 95 百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		08/3 期 投資額(百万円)
		07/3 期	08/3 期	
方南工場	シール主体	340	364	22
千曲川工場	輪転機主体	595	523	41
川越工場	オフセット主体	1,210	1,183	26
大阪工場	シール・シルク主体	1,004	1,038	20
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	848	654	15
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	670	1,333	198
三光プリンティング	シール主体	340	327	174
合計		5,007	5,422	496

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2008年3月期の自社工場生産額は、総生産額 5,422 百万円で売上高に対する生産比率は 44.2%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては当期グループ全体で 528 百万円でしたが、そのうち生産設備への投資額は 496 百万円であります。主なものは三光プリンティングの工場建物の取得及び中国深圳工場への追加投入機械類であります。

### Ⅲ.今後の展開・平成21年3月期業績予想

#### ◎ 今後の展開

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、ローエンドモデルの製品は、国内から中国・東南アジアに生産シフトしております。デジタルカメラやカーナビ、液晶テレビ等のハイエンド機種、付加価値の高い製品や技術力を必要とするものは、国内で生産されておりましたが、一部国外へシフトする流れも出てきており、部品の現地調達化の流れは強まっております。

この様な状況に対応する為、次の事項を基本戦略としております。

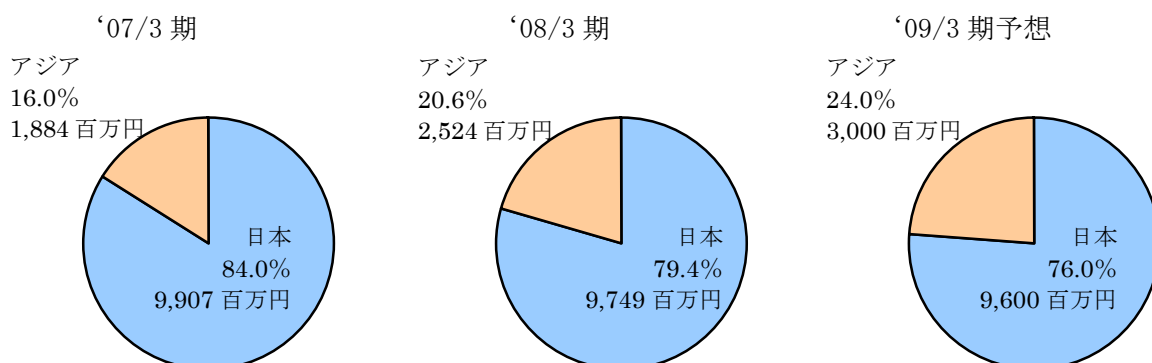
#### ○中国展開

#### ○成型品の拡大

#### ○国内新市場の開拓

#### 1. 中国展開

##### ○地域別売上



- ・AV・OA 機器関連については、セットメーカーの海外への生産シフトが続くなかアジア地域への売上高が増加しており、当社グループの中国での生産活動も2008年3月期においては、前期比大幅に増加(670百万円から1,333百万円へ増加)しております。また、更なる中国展開のための販売拠点として中国北京市に、2007年12月に光華産業有限公司の北京事務所を開設し、中国華北地域の販売強化を図ってまいります。

## 2. 成型品の拡大

- ・依然好調な携帯電話機の亚克力窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱い品目の多様化と顧客層の拡大を図ってまいります。
- ・技術面においては、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めてまいります。
- ・成型加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図ってまいります。



その一端として、最近では、家電業界の中にも亚克力に代わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の融合を1つのテーマとして取り組んだ結果、家電メーカーのDVDレコーダーの前面パネルとして製品化を実現いたしました。

また、携帯電話向けガラス窓は、亚克力窓に比べ高コストのため、現状では一部の採用にとどまっておりますが、機種の高級化により、ガラス窓の採用に弾みがつくと期待されます。

## 3. 国内新市場の開拓

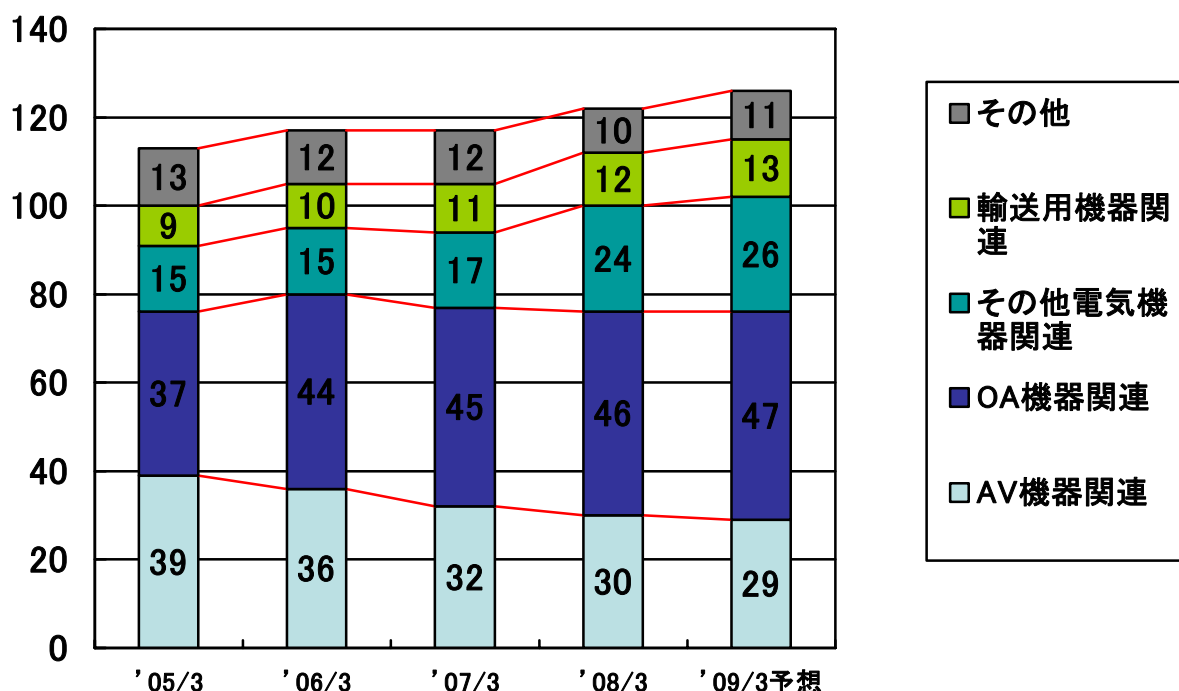
- ・その他の業種のうち、アミューズメント、玩具景品等の分野は、少子化の影響と中国製品の増加により縮小傾向にあります。当社グループとしては、この分野で受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指してまいります。
- ・また、サニー・ビジョン、ICタグ等の新製品、立体印刷等の新技術の導入により、新市場の開拓を目指してまいります。



◎ 平成 21 年 3 月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



今後の経済見通しにつきましては、原油高や円相場など不安要素もあり景気の持続力を注視する展開になるものと予想されます。

電気機器をはじめとする当社グループの受注先業界におきましては、IT化・デジタル化の伸展等により、新製品の多様化、スピード化が一段と進んでおりますので、当社といたしましては、前述の基本戦略の取組みを強化し対応を図ってまいりますと共に、品質管理の徹底・生産性の向上、コスト削減の強化などを一層推進し、収益力の一層の向上を目指してまいります。

来期の業績につきましては、AV機器関連は売上減となるものの、引続き携帯電話機向けを中心にOA機器関連及びその他電気機器関連等は増加するものと見込まれ、特に昨年8月に新工場が稼動した中国での拡販が期待されます。**連結ベースで売上高 12,600 百万円、経常利益 500 百万円、当期純利益 322 百万円を予想しております。**

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上